

アフリカアドベンチャー モーゴナーバ



モーゴナーバとは、西アフリカブルキナファソの王様。ブルキナファソのモシ族の王として、全市民から絶大な信頼と人望を集め民族のトップとして尊敬され、マリ、コートジボワール等、周辺諸国の問題解決に仲裁役として活躍しています。一時期この国にリビアのカダフィ大佐の逃亡打診が報道され、新聞を賑わした事もありました。

今回の再訪で王様の「偽りの出発」という民族儀式に参列しました。参列は出来てもお目通りは難しいと諦めていましたが、特別に王様に謁見する機会に恵まれ、奇跡的な夢のような出来事に心が躍りました。微かな望みを抱き、日本出発前に王様への献上品を心密かに思い巡らしていました。崇高で存在感があり、日本を象徴出来る物、両国のご縁を繋げる何か、「そうだ!」とご縁の神様、出雲大社が念頭に浮かびました。

三種の神器のごとく、農業国のブルキナに因み牛馬のお札、縁起物で願いの叶う幸の大鈴、そして皇后陛下が大社参拝の折、詠まれた和歌を斐伊川和紙に認め書にして持参しました。謁見の際、王様が、和歌「国譲り祀られましし大神の奇しき御業を忍びて止まず」の意をお尋ねになりました。駐ブルキナ大使の華麗なフランス語の説明に静かに耳を澄ませるモーゴナーバの神々しく柔和なお顔は、今でも脳裏に焼き付いています。両国の絆と平和が、このご縁で永遠に続きます様に。

(写真：ブルキナファソ日本大使館提供)

金環日食



5月21日 戦場ヶ原 石井撮影

編集後記
「こもれび」夏号をお届け
震災から2度目の夏。
原発事故の再発不安と電力不足による経済失速の懸念というジレンマの中で大飯原発再稼働に。どうが無事にと祈りつつ、節電を心がけたいと思います。
大野・齋藤

サークルiは、口の中の細菌が及ぼす全身への影響や、食事で噛むこと以外の口の知られていない機能を勉強し、それを市民の方々と共に考えていただく会です。ホームページ上でも情報を開示しています。



<NPO法人口腔健康推進協会サークルi>
227-0033横浜市青葉区鴨志田町815-35

電話：045-962-1184 FAX：045-962-1962

メール：info@circle-i.org URL：http://www.circle-i.org



地球に生きる（大宇宙から人体小宇宙まで）

目を閉じてみて下さい。真っ暗だったり、何かわからない模様が目に写っているのが感じられますね。それが宇宙です。宇宙は今より約140億年前に生じ、その瞬間はわかっていません。それは、観測上の限界だからです。「今宇宙」の前に「前宇宙」があったのか、「今宇宙」は今後どのようなになるのかも不明です。そして不思議なことに『無』から「今宇宙」が始まったとは考えられないと言われています。ビッグバン前に何かが存在し収縮から膨張に転じる宇宙、さらに『生まれ続ける宇宙』という考え方です。

物理学が扱える大きさには計算上限界があり、 10^{-33} cm、時間では 10^{-43} 秒だそうです。宇宙は一瞬で1兆×1兆×百万倍に巨大化しました。それはビッグバンの前、マイクロな宇宙に超急膨張(インフレーション)が起きなければ「今宇宙」の存在はないと想定しています。インフレーションは宇宙誕生から 10^{-36} ~ 10^{-34} 秒後、ビッグバンは 10^{-27} 秒後、素粒子が生まれ火の玉状態になり、素粒子の片割れがなくなるのは 10^{-10} 秒後という非常に短い時間に起きています。

また、宇宙の温度は100万分の1秒後数兆度C、10万分の1秒後1兆度C、その時素粒子と中性子が誕生、1秒後陽子、中性子、電子、陽電子が飛び交いました。14秒後陽電子がなくなり、3分後陽子と中性子が結合しヘリウム原子核が出来、38万年後水素原子、ヘリウム原子が誕生し、その濃密のガスの中で1~3億年後最初の星が誕生しました。もうすぐ地球の誕生です。(金子)



今回より歯科医の金子によるシリーズが始まります。宇宙→太陽→地球→地殻→土→野菜→五感と続きます。高校生の頃から化学に関心が高く農学部志望で、現在も家庭菜園に取り組んでいます。どうぞお楽しみに

市民健康講座「一から学ぶ放射能」 ～正しく知って正しく怖がる～ご報告

平成24年5月27日（日） 13時～15時半 山内地区センター共催

今、日本は漠然とした不安に覆われています。放射能に関する不確実で多様な情報に、信頼性を欠く政府発表が加わり、パニックに陥る子育て中の母親、家族バラバラになって海外にまで避難する人、国産食品を一切購入しない人、また更には偏見に苦しむ福島の人々、瓦礫処理の協力を拒む地方自治体等々、これらの混乱が今も続いています。このことはまた受け取り側の基礎知識不足も原因となっています。

こんな状況を少しでも整理していただくべく、当NPOの「市民健康講座」では、五月二十七日あざみ野地区センターに於いて、講師に東京工業大学名誉教授の小川雅生さんをお迎えし、「一から学ぶ放射能」を開催いたしました。会場は180名の参加者で満杯となり、やはりこの問題への関心の高さがうかがえました。

講演では、まず放射性物質の種類や放射線の性質、単位、半減期、自然界にある放射線、医療での被曝等が解説された後、本題の人体への影響に移りました。放射能の一番の問題点はガンの発生です。これは細胞分裂の際に放射線が染色体を切断し、更にこれらの損傷を修復する機能を持つ染色体が同時に破壊された場合に、ガンになってしまう確率が高いことが、多数のスライドと共に説明されました。また年間被曝100ミリシーベルト以上ではガンの発生率が上がり、これ以下の低線量率だと他の発生因子からのガンとの区別が出来ず、その発生率は不明である旨の解説が行われました。どうやら100ミリシーベルトあたりに危険度の分岐点があるようです。



最後に今年四月に改正された食品の規制値は世界で最も厳しく、今市場に回る食品や飲料水の安全性が解説されました。後半の質疑応答には多くの質問が寄せられました。中でも参加者の混乱はベクレルとシーベルトという単位にあったようで、質問が集中しました。



ベクレルとは一秒間に崩壊する放射能の量で放射線の強さを表し、またシーベルトは人体の吸収線量に放射線の種類による危険度を加味したもので、人体が受けるダメージの程度を数値化された単位であり、このシーベルトが実際の生活の中で最も重要な情報となるでしょう。

アメリカで9.11のあと移動手段を飛行機から車に替える人が多くなり、結局事故死亡率が上がってしまいました。人は自身の経験から安全に関する基準値を持っていますが、ゼロリスクを求めるのは現実的ではなく、時にそれを求めるあまり、新たに発生するストレスのリスクの方が大きくなってしまいます。安全の基準値はその人の生き方や哲学に係わっている難しい問題ですが、冷静な判断が必要です。

講演最後に福島から横浜に避難されているご夫婦が発言され、なおも解消されることのない放射能や、将来への不安等の苦しい胸中を吐露され、被災者の生の声に会場は静まりかえっていました。津波と原発の被災地の人々に早く平穏な日が訪れることを祈り講演会を終えました。（石井）



掲示板

第5回 すこやかライフフォーラム サークルi主催 青葉区役所後援

平成24年10月28日（日）13時～ 青葉公会堂(市ヶ尾駅徒歩8分)

駐車場有料

驚異の腸内細菌

講師： 上野川修一 東京大学名誉教授
森田英利 麻布大学獣医学部教授食品科学研究室



定員600名 会費900円 お問い合わせ事務局 045-962-1184